

第7回丹波市地域資源活用懇話会 議事録

1. 日 時 令和5年2月2日(木) 15時00分～

2. 場 所 春日住民センター大会議室

3. 出席者

○懇親会委員 (10名)

1号委員 関 美絵子

2号委員 藤井 和枝 竹内 真子 鴻谷 佳彦

3号委員 荻野 祐一

4号委員 田辺 真人 松原 慶明 大木 玲子

5号委員 濱田 亮光

6号委員 宇瀧 広子

○事務局

4. 協議事項

(1) パブリックコメントの結果について

(2) 丹波市観光・商工業振興ユニティプラン(案)の修正について

(3) 丹波市観光・商工業振興ユニティプラン(案)【概要版】について

(4) 答申について

5. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今から第7回丹波市地域資源活用懇話会を始めさせていただきます。会長の挨拶をお願いいたします。

6. 会長あいさつ

～田辺会長挨拶～

7. 協議事項

田辺会長：それでは、次第に沿って協議を行ないます。

(1) 丹波市観光・商工業振興ユニティプラン(案)に対するパブリックコメントの結果について事務局から説明をお願いいたします。

～資料の説明～

事務局：ここに記載しておりませんが1月13日に丹波市市民プラザでパブリックコメントの説明、書き方のミーティングを開催しています(パブコメミーティング)。3名の参加のうち1名が今回のパブリックコメントを提出されています。意見の件数としては8件ございました。それでは、各意見に対して、説明いたします。

番号1の意見は計画の内容にではなく計画書の構成に対するもので修正は無しとなっています。番号2の計画全般の目標値が下がっている項目の理

由についての解説ですが、計画書の48頁【事業の目標数値】に「氷上回廊水分れフィールドミュージアム来館者数」は令和3年度にオープンしていて初年度による来館者数の増加と考えられており、目標数値が下がっている。それを備考欄に記載すると説明が長くなってしまう為、記載していません。

事務局：68頁【事業の目標数値】で「新規企業者数」の数値が下がっているのは、起業は相談を受けてから実際に起業する時に年度を超える事があり、令和3年度は起業が集中したから目標を超えているが、複数年で見ると下回っている事になります。令和9年度には20を目指したいと考えています。

事務局：目標値は令和9年度を記載しているので、すべての目標の後ろに「(令和9年度)」を記載しました。68頁【事象の目標数値】の「新規企業者数」がどこから持ってきた数値か分かるように備考欄に出所を記載しました。53頁「市町別観光消費額」の数値についても備考欄にも同様に所を記載しています。

事務局：番号3の意見・提案はパブリックコメントのミーティングで頂いた意見です。それらを取り入れて記載していますので、計画書の修正はしていません。番号4の意見もパブリックコメントのミーティングで頂いた意見です。資料には記載はありませんが、計画書66頁より記載している基本方向3に新たな企業融資も掲げています。計画書の修正はしていませんが、基本方向を進める事で市として対応していきたいと考えております。これから第3期の総合計画を策定する時期になります。それぞれの関連分野の計画もそれぞれ進められていますので、調整できるように意見を反映していきます。

事務局：番号5のご意見に対して、恐竜課に問い合わせまして、市の計画は篠山層群一体(土地自体)をフィールドミュージアムとして位置づけし、ハード面(施設)の整備をするのではなく、ソフト面(豊かな自然を活かした体験学習)の実施(地元との連携を含めて)という回答でしたので、計画書の修正は無しです。番号6の意見については市の各部局との連携を図りながら実施するもので、計画書に修正は無しです。番号7と番号8は本人の思いを述べておられるだけであり、意見や提案ではないので計画書の修正も無しとなります。なお、番号6から番号8までの意見は公表対象外になっており市のホームページで公表をしません。

田辺会長：パブリックコメントの要点と修正の説明でしたが、特にご質問、ご意見ないようですので(2)丹波市観光・商工業振興ユニティプラン(案)の修正について説明をお願いいたします。

～資料の説明(事務局)～

田辺会長：ただ今の事務局からのご説明に関しまして、ご質問、ご意見を出して頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員：50 頁の丹波市ファンの増加に向けての取組で「関係人口」という言葉を挙げているが、言葉だけで具体的な数字もないのが現状だと思う。ふるさと住民登録制度を設けていて 1,000 人前後と聞いている。市長も「帰って来いよ」と発信している。関係人口を所管部署と観光課が連携することによって数値の目標を入れられるなら入れて欲しい。51 頁の観光情報センターの令和 9 年の目標ですが、今年 5 万弱くらいなので目標をもう少し上げて良いのではないかと思う。53 頁の市町別観光消費額の現況に令和元年度の数字が入っているが、今が令和 5 年で最新が令和元年度とすると令和 9 年度の 300 億を確認するのはいつになるのか。令和 12 年か令和 13 年あたりに令和 9 年の数値が分かるのか、と疑問を感じた。

事務局：観光消費額は令和 3 年度の数値が令和 4 年度の 12 月頃に公表されます。令和 2 年度で 125 億円、令和 3 年度で 143 億円という数字になっていますが、コロナ禍の影響が大きく、影響がほとんどなかったとみられる令和元年度の数値を現状に入れています。以上が現況に令和元年度の数値を入れている理由です。令和 9 年度の数値は令和 10 年度の 12 月頃に公表されるので翌年度には数値を検証できると考えております。公式に公表されている観光情報センターの数字は 5 万人と認識しているが、違っていれば修正します。

委員：公式と言うのは丹波市観光協会が公表しているということですか。

事務局：そうです。

委員：現時点で数字を見ると 5 万人弱程。4 年後を考えて目標設定し、それに対してどうしていくかを考えていかなければならない。丹波市観光協会と話して決めたいと思う。

事務局：50 頁の関係人口に具体的な数字が入っていない点ですが、所管部署に確認して、公式な数値が算出されているのであれば記入したいと思います。現在は把握していないので入れていません。

田辺会長：先ほどの委員の方からのご意見と関係しますが、現状の基本になっている統計数字の年度がばらついている感じがします。コロナの影響で一般的な統計に当てはまらず、影響のない年度の数字を取り上げているという理由をどこかに一文、入れておく方が良いと思います。事務局で相談をお願いしたいと思います。

委員：目標数値が下がっている箇所にも説明があった方が分かりやすいと思うのでご検討願いたい。

事務局：一文を入れる箇所を検討します。

田辺会長：他にご意見がなければ、この案は了承という事で、次の（3）丹波市観光・

商工業振興ユニティプラン（案）【概要版】について説明をお願いいたします。

～資料の説明(事務局)～

田辺会長：ただ今のご説明に、ご質問、ご意見はございますか。

委員：概要版の観光振興計画の5年後（令和9年度）の目指す姿の4番目、ICTを活用した「観光情報システム」。意図する事があり、書いていると思うが情報システムのイメージが湧かないのではないか。分かりにくい感じがする。

事務局：本編の54頁に丹波市がめざす5年後（令和9年度）の観光の姿を書いている、DX化が今回の改定後のユニティプランの進むべき方向のひとつにありシステムという言葉をよく使っているが、施策としても観光情報の発信を紙ベースからデジタル化に移り変り、デジタル化に重点を置くという意味で、まとめてシステムという言葉を使っています。今のところは本編に合わせて概要版を書いているが、もし意味が不明瞭なら「効果的な観光情報をするにより」などという文言に本編も含めて変える形も必要だと考えます。

委員：文章の最後に「市外や海外からの観光客が増えている」という文章がついているので、情報システムは観光情報の発信がメインなのだろうとイメージは出来る。ただ今後ICTを活用して人流などを調べていく事もあると思う。情報システムが何であるかを、読む人が想像しやすいようにしたらどうか、という意見。

田辺会長：「観光情報のシステム」の文言だけでは分からないことが多いと思います。観光情報をどうする為のシステムなど、観光情報の発信システムや観光情報の発信が充実などに変えた方が分かりやすいのではないかと思います。

事務局：システムという言葉については本編を含めて修正をします。

田辺会長：その他にご意見やご提案はございませんか。

委員：丹波市が目指す5年後の観光の姿についてですが、概要版の文章の表現に、レストランなどが増えていますや、300万人に増えていますと言い切っているのは文章としては分かりやすく良いが、違和感がある。「何%増えています」とか「力を入れています」のようであれば、勝手に増えているような印象で読みたいと感じられない。

田辺会長：それであれば、「レストランなどの増加」「300万人への増加」という体言止めにするのはどうでしょうか。そういう姿を望みますという意味で、「入れています」だと進行形なので、望むのが進行形では違和感があるように思えます。フィーリングの問題だと思いますが。

事務局：本編の54頁も含めて表現を検討します。商工業についても検討します。

田辺会長：その他にご意見やご提案はございませんか。

委員：概要版をどこに配るのかは分からないが、さらに見ていただこうと思うと、最近、よくある QR コードを付けてホームページに誘導するような事をしてみてはどうかと思います。

事務局：QR コードを付けたいと思います。

田辺会長：ユニティプランの本文についての問題ではないのですが、考慮の必要を感じる部分がございます。商工業振興計画には棒グラフが記載されていますが、観光分野は文章ばかりなので観光の部分にも視覚的な物を入れるのはどうでしょうか。それとデザイン業界の方々と話をしていますと最近ユニバーサルデザインというものが、強調されています。出来るだけ背景に色を入れて、文字を印刷しない方向にしていきたい。観光振興計画の特に青を見るとグラデーションの左の青の黒い部分に黒の文字と、右に行って青が薄くなっている部分に黒の文字とでは見やすさが異なります。グラデーションにするのは視覚的に恰好が良いのですが、目の不自由な方にとっては見えづらく感じてしまうのではないのでしょうか。商工業振興計画のグラフも数字がかなり小さく見えます。他の箇所の統計の数字も見やすさを考えて微修正をお願いできたらと思います。

事務局：グラフの文字がかなり小さくなってしまったので、観光振興の箇所はグラフを外しました。商工業振興の箇所についても文字が小さいため、大きな文字で、ユニバーサルデザインの観点から色味についても見やすく、工夫をして構成を考えます。

委員：商工業振興の方の基本方針と実施施策にはすべての項目に「など」がついているのが気になる。

事務局：観光振興の箇所はすべて書き込めたのですが、商工業振興の箇所は文量が多く抜粋しているため「など」が入っています。どのような記載が見やすいのか、調整します。

委員：QR コードと言われていましたが、誰に紙で配るのか(ターゲットは誰なのか)。例えば、市のホームページに飛んで行って、これがあるのは大事だが、興味のない人は文字がたくさんあっては読まないと思う。文字数が多すぎるように感じる。

田辺会長：どんな場所でもそうですが、関係者は出来るだけたくさん説明して情報を入れたいと思われそうですが、ぱっと見た方々は文字が多いと初めから本文を見ない場合が多いと思います。どうしたらよいかは難しいところです。

委員：これを読む人は政策に不満がある人ではないでしょうか。それ以外は読まないと思う。

委員：紙ベースでどういうふうに配布されているのですか。

事務局：概要版で全体を知ってもらい、本編に行く形の概要版と考えています。配

布先は市の内部、少しは閲覧用に考えています。市民にはホームページでの公表になります。

田辺会長：市民の方々に出来るだけ読んでもらいたいが、市民の中でもどんな人に読んで欲しいと思うかが大事になってきます。子育ての真っ最中の方々であれば教育には関心があっても、概要版が置いてあってもあまり取ろうとはしないと思います。これは観光や商工業に携わっている方が対象ですね。観光や商工業に携わる市民の方がユニティプランをご覧になられて、意見を出すような場を設けることができるのでしょうか。それができないなら、配っても事業者の方々が関心を持たないのではないのでしょうか。

委 員：配るのですか。置いておくのですか。

事務局：配る先は観光協会や商工会で、そこまで部数もないので個人の事業者にまで配る想定はありません。概要版も同じで市の内部と丹波市議会と商工会、観光協会に配布という形を考えています。

田辺会長：概要版は何部、印刷される予定ですか。

事務局：本編が 100 部。概要版が 200 部です。

事務局：印刷部数がそう多くはありません。概要版は PDF で納品されると思うので、自前で印刷は可能です。概要版に本編への誘導に QR コードが必要だと感じたが、商工会ではファックスレターやメール配信があります。QR コードは解像度が悪くなければ読めますで、メールやファックスで配布してもらおうかと考えています。そこから、本編への誘導を図りたいと思っています。

田辺会長：今、観光協会と商工会の会員は何人ですか。

委 員：商工会は 2,076 人です。

委 員：観光協会はすぐに人数が分かりません。

田辺会長：本来は観光、商工業の事業者に見てもらふ必要があると思います。概要版が 200 部では少ないのではと感じます。観光協会、商工会の会員にはこれが必要ではないかと考えます。

委 員：観光協会、商工会に配ってどうされるのですか。商工会のファックスレターなどは興味があつて見ますが、概要版を配られても、目を通さないかもしれない。

田辺会長：例えば、A4 一枚で裏表に大きな項目だけ書き、こういうのが載った本編が出来たので、興味がある人は参考にして下さい。という形の方が良いような気がします。現状に不満があり、意見のある方が、きっかけを通じて本編に入って、要望が出てきた時の受け皿を市で作る相互作用が必要ではないかと考えます。今後、考えてもらえたらと思います。

事務局：これは市役所の人たちが政策を作る指針になるものだと思う。商工業者が熟読する必要はあまりない。あるかもしれないが一番、読まないといけな

いのは政策を考える人だと思う。それが無かったら出来ない道しるべみたいなもの。

田辺会長：市役所の方たちの中で政策を作るのが目的ではなくて、観光業、商工業の振興が目的です。現実にはその業界に携わっている方たちの意見が反映されるものにしていかないといけないと思います。それでは予定された協議事項が終わりましたので、進行を事務局にお返しいたします。

事務局：貴重なご意見をありがとうございました。丹波市観光・商工業振興ユニティプランの審議はこれで終了いたします。今後のスケジュールは2月21日（火）11時から11時半、会長、副会長から市長に6月の諮問へ答申となります。それでは最後に部長からご挨拶をいたします。

～事務局、産業経済部長挨拶～

8. 閉会

事務局：これもちまして閉会いたします。ありがとうございました。